

冬のバードウォッチングを楽しもう！

藤田英忠（東金市）

日 時：2019年1月20日（日）10時30分～12時 天気：晴のち曇り

参加者：大人27名、子ども9名 計36名

担当指導員：木下順次 藤田英忠

今冬は雨も降らず、冷え込みもきつく各地の里山や平場の野鳥情報はあまりよくない。

今朝は始まる前に一時間半ほど下見をしたが例年になく数も種数も少なく情報通り。それでも日差しが照り、暖かくなってきたので本観察会では、野鳥が周辺に潜んでいるならきっと出てくるだろう、と期待した。

二班に分かれ観察。これまでの出現野鳥とその環境評価数を配布し、環境に合わせ期待できる鳥とその簡単な生態を話しながら進んでいった。大草の環境は、年々変わってきている。入り口近くでは以前切られた竹藪は回復せず、杉は倒木し伐採され、田んぼ奥の葦原の縁は奥へと道がつけられていた。林が浅くなり人家が丸見えとなったところもある。人家大好きなハシブトカラスやヒヨドリ、ムクドリが姿を見せ鳴いている。ここでヒヨドリの移動姿の話やモグラ穴があれば以前飼育したことがあるモグラの生態の話、モグラが大好きなミミズはツグミも大好き、ツグミの採餌行動の話など余談をして歩を進めた。セグロセキレイのひと番が採餌していた。羽根は雄の方が黒光りしているよ。遠くのハンノキにモズが一羽いた。またコゲラが鳴いて遠くへ。「コゲラはキツツキの仲間、環境悪化を表す指標鳥。舌が長い。それで林の立ち枯木の中の虫を取り出すんだ。枯れ木が多いことがコゲラに向き、そこで環境が悪くなってきている指標鳥、ということだ。仲間のアリスイは長い長い舌でアリの巣からその幼虫を吸うのでアリスイという。この鳥はマムシのような毛模様で気持ち悪い。首を360度回すよ」なんて余談。

余談ばかりで、葦原へ。アオジと遠くカムチャツカからやってきたカシラダカに期待。両方が見られるはず。持ってきたbirdcallingの笛で呼んでみると二種が早速近づいてきた。この笛のおもしろさも紹介できた。

田んぼの中を観察すると足跡が見える。カルガモの足、セキレイの足やタヌキと思われる爪がある丸い足が点々と跡をつけていた。この足跡は、しばらく見られるので次からの観察会でもダイサギやコサギの足跡、貝類昆虫類の這い跡など楽しめる。

田んぼの水たまりのみで、池、沼をもたない千葉市大草のような里山の場合、一月の野鳥観察はいわゆるタイムリーではない。しかし、それでも一般市民が多く集まってくるのはどうしてか。終わった後感想を聞くと、『モグラの話は面白かった』『アリスイ見てみたいなあ』『カシラダカ見られて良かった』と。これは、ただBirdwatchingだけではなく、その環境がもたらす自然界と野鳥の関係や形態、生態（姿だけでなく採餌・囀り、繁殖など）を知ることを通して、もしそこにその鳥がいたら私はどうそこに近づけるか、を感じられるそんな面白さを持つ自然観察会の中の、野鳥観察会であることも大切であると感じた。今回どこまで近づけたかはわからないが、努力して指導員も勉強したい。

本日の出現鳥：ウグイス、アオジ、カシラダカ、コゲラ、ヒヨドリ、モズ、メジロ、シジュウカラ、セグロセキレイ、ツグミ、ハシブトカラス、ムクドリ、シメ、キジバト 14種



様々なバードコール